

「水」を守れ!!未来は僕らの手の中に」

松山市立鴨川中学校 二年

きのした けいご
木下 圭悟

その日、朝から降り続く雨に負けないように、僕は大きい声で合唱コンクールに臨みました。雨の音はだんだん大きくなり、ピアノの音が聞こえにくくなっていました。

「皆さん、車を運動場から出さないでください！」

突然、教頭先生から、緊迫感のある声で放送が入りました。その日は、保護者もたくさん来校していました。運動場の雨水は腰近くまで浸水し、体育館から校舎につながる渡り廊下も、雨水のせいで通ることができなくなっていました。

令和六年十一月二日、僕たちは、水の脅威を、水の怖さを初めて知りました。あの日、松山市では初めて「警戒レベル五」が発令されました。不安そうにする友達、対応に追われる先生。緊迫感の中、外から聞こえる雨音が、僕の不安をかき立てました。車で来校した保護者は、自分達の車が浸水していくのをただ見つめるしかありませんでした。昼過ぎまで雨は降り続き、浸水はどんどんひどくなっていました。午後一時を過ぎた頃、雨足も弱まり、運動場に溜まっていた水も引きました。車で来ていた両親と家に帰る途中、僕は周りの景色に声を失いました。至るところで、家から水をかき出す人。畳を運び出す人。川から流れてきたであろう、木くずやゴミの山。目を覆いたくなるような光景が、そこには広がっていたのです。「水」は、僕達の生活を支え、豊かにしてくれるものだと思っていました。しかし、今回の経験から、「水」は一瞬で人々の生活を脅かす危険が潜むものだと思ったのです。

松山市は、毎年「水不足」が問題となっています。母が僕と同じ中学二年の時、松山市で「大渇水」が起こり、大変だったと聞きました。十

六時間もの断水。給食さえも、水を使わない特別メニューになったそうです。松山市の年間降雨量は全国平均より少ないため水不足が起きやすいです。石手川や重信川などの川が短いのも、原因の一つとして考えられています。降った雨がすぐに海に流れ出てしまうからです。そのため、利用できる水量が限られます。様々な要因が、松山市の水不足を深刻化させていると分かりました。

水が引いた後の川を観察してみました。沢山の草が生い茂っているのが、確認できました。僕の住む地域では、大川と吉藤川が近くに流れていて、この大雨で大川も吉藤川も氾濫寸前になってしまったのです。普段は、緩やかに流れ、初夏には蛍も飛び交うキレイな川です。しかし、一瞬の大雨によって、生活を脅かすまでになってしまったのです。

松山市における水不足と、豪雨災害の危機管理が、これからの課題だと考えられます。日本人の一日当たりの水の使用量は、二〇二〇年度においては二六二Lと、かなり多くの水を使っています。この現実を知り、僕は自分にできることを考えました。

水不足においては、普段の生活での節水を心がけること。手洗いやシャワーは出しゃばなしにしない。雨水の再利用をし、庭木の水やりを使う。洗剤やシャンプーの量を減らすことで、すすぎを減らす。

雨による災害においては、風呂水を貯めておく。これは、節水にもつながります。ハザードマップを使って、避難経路を確認しておく。溝や雨どいの掃除はこまめにしており、水が流れ込むことを防いでおく。身近にできることは、沢山あります。自分達の意識を変えて、行動を起こすだけで「水」との向き合い方が見えてきました。

今回の経験から、「水」は命を守るものでもあり、命を脅かすものでもあると知りました。正しい知識を持つことで、迷わずに行動できます。僕一人ではできないことも、仲間と協力して行動を起こせば、必ず変えることができると信じています。人々を支えてくれる「水」に感謝しながら、これから「水」と真剣に向き合って生きていきます！